

授業改善推進プラン < 英語科 >

(英語) 科 における令和3年度授業改善推進プランの検証

- 1 学年：全体的に、目標値を上回っているが、「主体的に取り組む態度」の分野で目標値と等しい点数である。
- 2 学年：「聞くこと」「話すこと」への苦手意識は少ないが、「文法事項の理解」や「書くこと」への苦手意識をもつ生徒が多い。
- 3 学年：基礎的な単語や文法の知識の確実な定着と、自分の意見や考えを他者に伝えるための応用的なライティング、スピーキング活動を行なっている。

(英語) 科 における調査結果の分析

内容別結果の分析	2 学年：目標値に対して、下回ったのが「言語・文化に対する知識・理解」と「短答」であった。この傾向は、全国平均と比べても同様であった。
	3 学年：基礎的な知識を応用して自分の考えを表現する分野の区・全国平均に近いものの、基礎的な英文法の知識や単語の知識が欠けているようで、その分野の正答率が低い。また、読むことの分野の結果も振るわなかった。
観点結果の分析	2 学年：目標値に対して、全ての観点で上回った。しかし、「言語・文化に対する知識・理解」における差はわずかであった。
	3 学年：「関心・意欲・態度」、「外国語表現の能力」、「外国語理解の能力」については、全国平均は上回っているものの区平均より低く、特に「知識・理解」は区・全国平均を5点以上下回っている。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 2 学年：「言語や文化についての知識・理解」に関して、これまでやってきた教科書の音読を「やりとり」とリンクさせ、やっていることに意味を持たせるようにしたい。
- 3 学年：「言語や文化についての知識・理解」に関わる学習を強化する。具体的には1・2年生で習った文法や単語の復習となる教材への取り組みを進め、基礎的な知識への理解を高める。また、平行して長い英文を収録した教材を用い、英文を読んで理解する能力を養う活動を行なう。

(英語) 科 の授業改善策

- スピーキングテストなどのコミュニケーション活動を多く取り入れ、表現力を高める。
- ペアワークや発表などの機会を増やし、「やりとり」「発表」する力を高める。
- 帯活動で継続的に行ってきたことを、定期考査の「表現の力」の問題で試すなど、授業でのがんばりが定期考査などの結果に反映されるような工夫をしていく。